

附 13 遠へ
2209
74

繪本豊臣勲切記八編卷之四 目録

察根来難保蜜地潔戮死 属 纪州平均

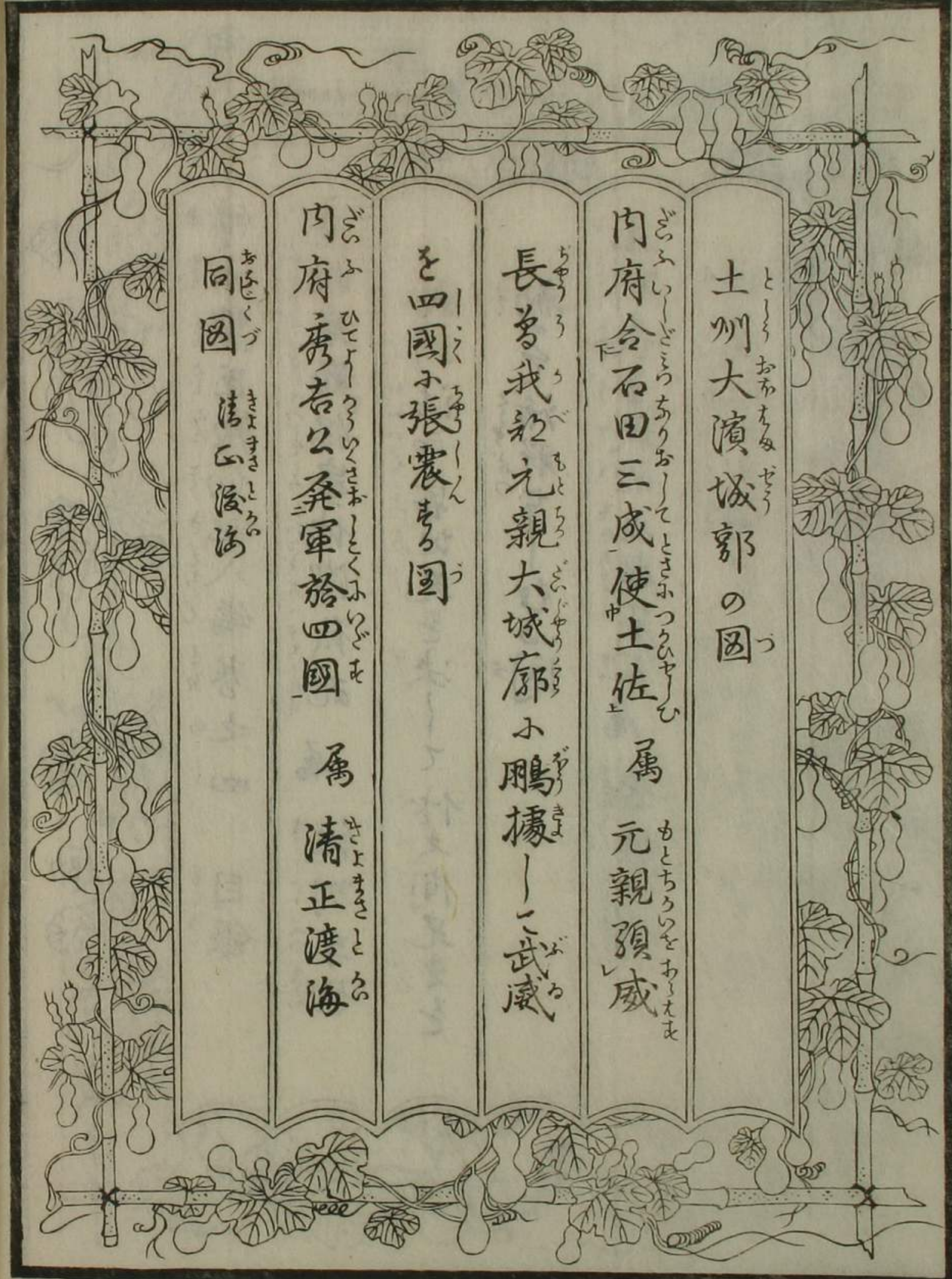
粉川法印密地死を決して休之間兄弟を

勸めて活脱せしむる回

土羽長曾我初元親家系属 普握四国

相紫殿如田浦らそ兵船を作しむる回

西行集卷之八



土州大濱城郭の圖

内府合石田三成使土佐 属 元親顯威

長男我初元親大城廓小鵬據一武威

を四國小張震る圖

内府秀吉公奔軍於四國 属 清正渡海

同圖 清正渡海

繪本豊臣勲四記八編卷之四

東京 櫻澤堂山 刪補

察根来難持密地際戦死 属 紀元平場

成実論不悦る言あり。懈怠の行者ハ猶一。本样の初成

来々りといへども。日こふして減るるが如一とあるハ。續

根来寺の悪僧率明監翌墨の教示と持とむ。有海の罟

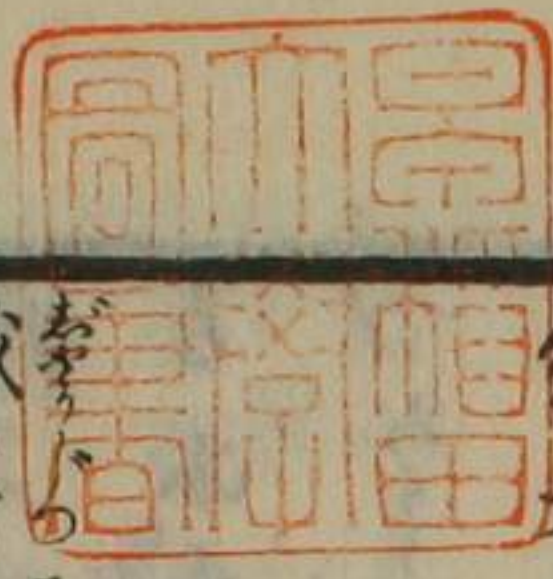
不盛水の減中をた命と知あぐ。歎ふ心と盪して。日こお

の犯悪佐罪方僅現前不救来て。生あぐとある。修羅界不

る早ハ殺殺せらるるといへども。張本粉川法印ハ。根来乃

要峯と固うか。猶も秀吉の軍配を預め推察一はまこバ。

演積若寺の臨ざるこぎり。屬く廻馬若来りて。救とんふ



こと急ありしうらも。本守の兵勢を悉く攻めさせ。攻めさせらるるに
 不防禦難し。佐久男。鷲山。松本と隊下し置止て他
 依りし。茲に一個の奇賊法花院の義恩といふあり。性質殊
 不嫉妬し。男色の性根より。山中と不和ありし。其の
 遭の初亂と倖と。羽柴方小内通して根束の宿直と慶
 小。然して山をあらしんと謀り。松本山と潜出ると蚤
 くも。察して務川法印。ぶつと追て法花院と。澁畑村の谷
 間ふて。左右なく害して斃と地。松本進款の蹠蹠と察
 る。小。秀右をうけて根束寺の谷と法方へ勾引出。大将と
 づつと出馬して。本山根束と攻る。情急の察の告り
 乃まば。予。得。不。智。勇。の。法。印。も。秀。右。出。馬。し。つ。ふ。不。感。され。

然る軍の難危ありし。謀て秀右と殿扱。望ハ忽地置
 ぬべし。松警山と左小付。佐久回兄弟と右小付。せて精兵
 五百餘人と従へ。根束寺より二三里出。山中の里より一里
 離れて。琵琶が崖の谷際ある。樹深き中。不。埋伏して。羽柴
 勢の推進ると疾し。や。遅し。と。待。在。し。り。然。右。と。小。羽。柴。の
 大軍。秀。長。と。先。陣。と。して。其。勢。三。万。五。千。餘。騎。根。束。寺。さ
 して推進る。其。弛。る。こと。風。虎。の。像。く。山。林。溪。谷。の。險。阻。と。厭
 えず。速。く。も。紀。別。の。隈。迫。く。先。陣。隊。伍。の。弛。若。と。は。山。中。に。は。先。陣
 左。親。張。り。務。川。が。伏。兵。深。林。の中。より。霧。出。松。警。山。小。先
 陣。の。後。隊。と。固。く。喫。止。させ。法。印。密。地。に。凜。く。然。と。佐。久。回。兄
 弟。と。左。右。不。從。付。後。陣。へ。密。馳。と。突。て。菟。り。款。の。陣。中。と。視。疎

せべ。藤佐もつとも嚴密にして。その中央に名不稱り。千
 生龍の大馬懐卓然として突樹より。法印浩と視るよりも。
 張然として大笑あり。的當故の秀吉あるぞ安繼實政那
 方と云よ。ものくくげ不獲冠者分。獲智惠淺く吾此地
 子。埋伏まるとも去來知らむ。推來りつる城一さよ。餘人
 不いん愈る莫。子成龍と目當不擲投ま。勢く怯む不曉る
 ちと。隨雷の像く叫起。龍尖三尺棟八尺割雷刃と号する。大
 薙刀と車輪不轉回。大羅刹鬼の暴るが像く。有る左右前
 後も祝分ぬむり。塙田中条。大谷倅が藤佐と無碍不割
 て通り。糟谷が馬茶不翔菟る。その疾速こと月影の姿波不
 碎り。が如く。塙て左右の佐久兄弟。純威虎猛と殺奪

一々且バ。糟谷武利も會釋りて。左右と用ひて通し。り。
 法印彼方と略と看む。總大將内府秀吉。緋緘の大體と草
 摺長く被下まうへ不。五三の相の花号印と。令糸の終面帷
 く左右不懸。赤地の錦の大戦外套と。ぶやう不流被彼
 大綱不うち誇り。巍々然として立ち。その際聽て十歩不
 條。走。進。退。危やと察るところ。大將誠く。大音あげ。
 いく不逞。裕川の蜜地。佐久間兄弟も。帝不聽け。忝も乃節
 内大臣秀吉の威。雅台名と下賜り。假不秀吉と稱し。り。
 凌野八郎左衛門長重あり。汝倅子苦万勞して。此まて末
 り。穩愔さ不。彰將の長重が。對争不あつて。得さむ。だ
 一と。鞞くとうち。嗤へ。蜜地も佐久間兄弟も。持。く。棟。雷

豊後国志 卷之四

と降さぬむり。斬て借不忙然と。浩る取不後陣の旁より。天地も崩る。大音声不。羽柴秀吉是不あり。殘賊軍を遁走ま。響投中りと呼たり。響不應。て斥相殿坂長棟の騎勢三百餘騎と。横一聯不崩発させ。粉川佐久間と推捕圍む。まつ。粉川が後より。増田中条。大谷の勢四五百一度不取て返。遁走ま。響投と。接起。攻居ると。大剛云。田の法印密地。猛傑云。故の安継。実政。五百餘人の自兵と。懸ま。突て。他技。近投て。右と崩。左と割り。前不難伏。後不拗。迫進。他名。へ面背。首飾。ある不。信。て。亂殺。ま。ること。大飢。勝の。群鬼。集。獲。ふ。が。如。く。暴。虐。て。を。戦。ひ。り。然。ども。名。不。帶。羽。柴。の。勇。名。虚。隙。も。あ。り。せ

む。攻。起。り。是。バ。五。百。餘。人。の。粉。川。勢。も。此。場。不。敵。是。彼。取。不。煩。さ。と。存。令。一。つ。る。名。軍。の。百。人。不。ハ。足。ざ。り。り。そ。色。さ。へ。涼。瘴。疾。を。負。て。用。不。遠。べ。軍。も。な。し。法。印。密。地。も。兄。弟。も。重。ら。ざ。と。も。敵。り。取。不。瘳。を。負。今。の。新。上。と。秀。吉。り。取。不。法。印。不。不。と。り。思。慮。一。り。ん。奮。迅。な。し。て。圍。を。突。抜。兄。弟。の。者。と。技。り。一。里。を。り。り。退。返。し。小。堆。き。丘。不。馬。蹄。と。踏。め。安。継。実。政。不。響。ふ。言。や。う。右。方。僅。泉。列。界。と。ある。三。の。技。寨。の。お。と。察。る。不。多。く。ハ。敵。不。臨。さ。ま。く。自。方。の。法。士。も。員。と。盡。し。戦。死。せ。し。不。究。ま。ん。ぬ。傍。て。羽。柴。の。法。軍。勢。斯。涼。と。推。進。る。の。と。あ。り。む。野。然。野。の。救。も。な。ま。き。ハ。秀。吉。を。やく。も。法。守。と。堅。守。つ。る。も。の。故。然。あ。く。バ。羽。柴。の。威。不。恐。畏。て。降。服。せ。し。

と覺えたり。今へ吾儕の運も尽たり。然りとてども汝儕ハ
 此不令と頑る子逆む。密不吾妻へ弛下り。北条と怙也。
 うちあゝむ。短慮まべうらむと。吳倫く。疎進む。是れども。兄弟信
 義と厚うして。更不器をざり。乃と。法印故。怒相と。容せ
 て。汝儕斯まで。吾言不背。未永永。初絶好あり。隨之。不
 セよと。弛出と。兄弟。洞一。舟子。伯父の。蜜地と。抱。ま。づ。く
 腹と。結。ゆ。五。令と。背。ま。ま。然。ハ。眼。前。伯。父。所。房。乃。
 我死し。五ふと。外地。不。容。て。落。る。心。の。衰。し。さ。よ。と。勇。猛。の。氣
 も。頼。抗。て。悲。嘆。の。涙。泣。泣。一。た。一。浩。る。如。へ。羽。柴。勢。ふ。ふ。と。ひ
 碎。り。逆。づ。と。法。印。流。祀。不。暗。と。容。を。り。あ。ゝ。故。名。へ。逆。付
 し。を。思。し。く。隙。際。ど。ろ。と。に。ハ。故。の。圍。と。受。べ。さ。も。の。と。快。く

去りねと言捨て。群ぐる。故の。正中へ。大磐石の。頼る。係く。
 馬と。跳。ら。せ。逆。投。り。伏。久。万。安。徳。実。政。ハ。泣。く。蜜。地。の。後
 親と。別。情。惜。れ。不。願。願。と。寧。と。傳。ひ。谷。と。執。何。雲。孰。雲。落
 矢。り。然。布。ど。不。法。印。ハ。大。惡。魔。王。の。暴。る。如。く。横。徒。を
 礙。不。故。中。と。五。六。返。布。と。弛。死。る。その。迅。き。こと。旋。風。の。落。紅
 紫。と。捲。が。如。く。一。樓。標。と。祖。と。退。拳。己。糸。の。丘。不。逆。踏。て。東
 の。方。と。視。て。を。バ。伏。久。同。兄。弟。山。際。と。樹。回。環。不。落。仍。り。り。不
 ぞ。方。僅。へ。既。心。寧。し。と。勝。の。松。の。正。中。と。威。刀。も。つ。く。剛。等
 ま。し。母。指。の。尖。意。碎。き。懸。墨。の。文。字。不。く。蜜。地。掃。空。の。偈
 と。額。記。先。際。く。我。死。せん。と。爛。く。と。眼。と。歳。と。瞬。き。去。来。や
 圖。王。の。星。執。器。不。秀。右。が。截。楫。往。ん。来。是。ゆ。ら。と。怒。喝。一。声



粉川法印戦
 死の期を覚
 志く佐久間
 兄弟と零る



豊臣討ノ劔巻之四

土

正悪小あつて割て投り。千方万面剛怯と嫌をば。進退を
 撰まばし。嗣斬獲斬車攻。大震波小架装韓竹割。天と
 睨む血烟不。大戦場も暗弱。蹄烈一き沙烟ハ。東西を看
 惑ひ南北を失ひ。乾坤も分らば四方八面。正悪小あつて振
 動を。ナあり一雙睨くと。蜜地ハ眼光閃輝り。血ハ流げども
 割霞刀の。晃くと一て。忍鏡る。そまを目的。小羽柴の。佐勇
 士。襖並べて推投困。後節回佐て。獨出花決ハ。魔風を向
 て降る雨の。斜不破殿と打が如く。七左八右十面五宵。上代
 拂へ下より。晃き。旗を拒抗ハ。胸先危く。後と抱まば。前
 小あり。前と薙まば。後不繁く。其身ハ。敵り不不。除痺と被り。
 禮も降の。窩不等。一。立練不。做て。花より。一。畏。一。り

らる猛入道あり。根来寺の主領ダ中不も。鬼神と号ま。一
 粉川蜜地。斯の如く不。嶺々ま。條敷いらで。存命ま。ま。枚
 警山も。秀長ダて。不。戦死。一。りま。ま。遮ゆる。故。一。路もあ。く。
 直地根来寺不。推。進。ハ。方。十。隈。業。積。累。焼。く。焼。く。と。焼。起。り。る。
 機舎合魔風。勵。一。記。り。て。法。院。堂。寮。大。伽。蘭。暴。熾。天。と
 も。根。ま。ダ。如。く。未。の。刻。より。焼。起。る。西。の。首。不。至。る。刻。際。ハ。
 根来の山中。金。劫。て。猛。火。あ。ら。ざ。ら。所。も。あ。く。魁。兜。老。僧。脩。苦
 痛。不。堪。む。泣。叫。ぶ。悲。哭。の。声。ハ。叫。喚。奈。羅。苦。の。現。お。も。斯。や。と
 たり。り。視。畏。り。這。响。羽。柴。秀。吉。ハ。法。軍。不。指。揮。一。て。根
 来。ち。の。鎌。と。寸。隙。分。鐘。も。あ。ら。せ。む。子。逆。万。周。不。捕。綱。々。ま
 ば。火。中。と。逃。ま。出。る。惡。徒。ハ。綱。魚。罟。不。矣。あ。ら。せ。む。一。個。も

豊臣記ハ編卷之四

七

残さず盡す。一夜の風くと曉るころ。法山無敵の佛眼
 法標皆悉く妖嬈とあり。爛鼻血腥鼻と穿ち。穢煙燭清眼
 不流ぎ。昔の大日不二檀の清淨香潔あり。場も。忽地
 變して三惡道の懈不等。色と争ひ欲不競。佛界遂不
 遁る。道なく。秀吉のて不滅せし。怖畏も。愧面
 りり。山中の帝舍斯むりり。貪悪く燒滅。乃そ。大將
 の在まづき。亦もなき。當日の岡部不陣と張。法勢の勢
 捕来り。一賊。或は活捉。賊徒と逐。一不檢。一とまひ
 乃そ。名ある。惡僧逆徒の賊。四百六十有餘級。活捕の軍
 二百餘人。卿民一揆。四百四五十。まると。自方の戦死。邪逆
 悉く。檢あり。乃そ。百九十騎とぞ。記さむ。浩る。雨へ。返る。

不。法方不分散。軍勢。秀次卿と殺して。細川蒲生。尾
 田。峰。領。筑。筒井。中川。山。峰。屋。各。大。將。の。陣。陣。不。返。候。一。捷
 軍。を。か。一。ま。か。せ。當。日。の。法。軍。と。休。息。な。さ。し。め。曉。ま。ば。三
 月。廿。三。日。秀。長。を。大。將。と。あ。し。中。村。平。堅。峰。屋。併。と。あ
 撃。と。し。て。一。万。餘。騎。和。歌。山。の。東。あ。り。太。田。の。城。を。攻。ま。せ
 あり。遠。城。の。主。將。を。へ。太。田。次。郎。右。衛。門。尚。政。と。て。智。勇。あ。る
 者。な。ま。は。樹。を。堀。し。て。防。禦。せ。し。也。易。落。城。ま。す。ふ。も
 くな。ぬ。と。平。野。長。泰。計。謀。を。逆。ら。し。太。田。の。城。の。ち。り。と。登
 て。水。攻。ま。し。り。不。五。日。の。うち。不。溢。水。あ。り。て。忽。地。落。城。不
 遠。ん。ど。り。城。將。尚。雅。を。殺。し。て。服。膝。の。徒。士。一。百。人。旺。極。頭
 て。死。り。り。浸。せ。し。水。を。裁。減。し。て。城。中。の。法。率。法。助

命ふさしめ。中村一氏と太田不留守。城を守らせむ。其より熊野を攻めし。根来太田の落城不兢くと。怖し。新宮本宮那智までも。金懸く降参せり。こま不周。秀吉公。公辞政造と嚴し。大衆僧徒不令叩らむ。直地。言野不向をせむ。茲不先年。後長の缺籍と被り。落魄。ふして言野の蘇不。整居一力。一連内府の恩化不澤り。秀。原來副直の者あり。一が。一連内府の恩化不澤り。秀吉公の天仁武徳。存者あり。ぬ不感服不。昔の嫉怒を翻へ。只道心不傾き在る。運遭紀州征伐と聆より。言。やの衆徒と。兵端と。勅め。或へり。と解明と示して。大衆。半へ秀吉不降服せんと同心。一々。山主最も副勇不。

て。令根名器。糧資の事不。飽まで富ると恃怙と不。後盛が。疎と容ざり。乃。佐久間入道。拾まる。不術あり。言野と去。て。熊野浦不。幽居と求め。潜る。と。然不。秀吉公へ。勃然として。指揮一。言野山を攻ること。烈然として。方。僅。同。岳。山。と。も。裂。ん。む。奮。勢。不。止。は。山。の。衆。徒。恐。強。して。忽。地。衣。服。不。一。々。不。ぞ。内。府。連。地。不。禱。受。一。五。ひ。加。後。増。と。と。登。山。不。さ。し。め。言。野。領。二。十。八。万。石。不。あり。乃。と。廿。四。万。斛。の。減。削。あり。て。四。万。石。と。ぞ。不。せ。し。ま。ら。む。其。別。兵。杖。武。器。の。類。へ。金。懸。く。こ。ま。と。收拾。迄。已。后。僧。徒。と。専。と。一。佛。送。修。行。の。外。其。任。不。さ。る。武。術。兵。方。出。家。沙。門。不。あ。る。ま。し。律。決。して。好。む。べ。く。さ。る。青。嚴。一。く。禁。止。せ。し。ま。ら。む。と。備。山。

の要造まをく忍怖一宮野の傍房迄后へ全く穩ふあり一
とぞ。肝柴殿の武威新の如く。一月三旬と経ざらうち不。紀
俘一國悉く。平均不迄むまくれバ。秀吉公區く不。政事を整
一く執行すをま。大和太納言秀長卿と大守とこそその定
めらまら。儲又赤松孫三郎利村。祐子田守左衛門通清
命ト。和太工一百五十よ人と撰ま。同國加田の濱辺不
ひく。兵船百よ艘と佐らせま。是ハ勿地四國征伐の所
准佐とこそ知ま。とま

土列長考我部元親家系 属 善極四國

井底の筋ハ幹とくること難一とま。不海中の龍ハ天不
躍るも亦難く。秀吉兵幣の棟と。紀列不採の叙より。

既土列なる長考我部と征伐まべき後謀を決断せま。とま。
今迄不。敵百の艘艦と佐らせ一ハ。大番天を由料理べふ。忍
一。あんど雁畔不。斯まて不。不般残る取不。謀後を布
施して四月中旬。大坂城不還軍一。五ひ。運道法泉の残
勞と。大不賞羨せま。とま。近國他方の大小名も。内府の
所帰陣と賀せんとして。使者の往來門堂不亮波一。てそ。娘
ひらる。其ハ圖ま。茲不南海土佐の大守。長考我部宮内
輔。泰元親が系圖と頼め。啓る不。日本の所代ハ。人皇元九
代。天智天皇の天智譜ま。一。ま。不。所時あり一。百海の
國。唐の玄宗の終不困め。とま。日本因不。接兵と。乞。天智
帝。紹して。河辺百枝と遣た。とま。遂不。玄宗の軍と放る。

その恩沢不感服して珍害致多齋して三使を遣て恩と
謝を天皇これ成慶愛ましく三使の一個を日本不止さ
せ。謙足大臣の近侍くくめ。信濃國不來地と賜ふて。姓
を秦とそ号ししり

諸家大秘深不之長号系初盛祝の先祖を召る
不人皇十四代仲哀天皇の所号。秦の始皇の六代
の孫日本不來朝して信濃國不臣せし成てま不
秦氏を賜る。秦の始皇の末孫とまばあり。その後
年守正大連佛法と信せむ。朝敵とある秦十五代
の孫秦川勝一方の將として守屈と亡むその愛不
土佐の國と賜り長号系初の白不臣ととり

然る不星箱久くくま來つ。應永のはありりりか。秦十七代
の後胤秦の元勝ととりるもの。勿かして喜氣猛傑あり。猶
ども領する地も過半。他のとめ不掠めり。衣食住ま安
く。然る不元勝天性調達猛氣不して。鴻雲の志ありりり。安
早くも父母不離きて孤とありりり身と熱く懷旋らせむ。
君今秦の家と續で。寸地不領重なりととりども。有てなきり
程劣まり。生涯儘くとして山中不。果さんことこそ朽憾ら
む。女と練り女と快磨きて。菘び家と召さんものと。譜代喬
功の居家ありりり。久武源義中内八郎等不。強奴兩三召伴
らむ。信濃の國を辭去て。西國の方へ趣くとま。家居あり
り。中肉ハ。祖父土佐より。姓とりとて。偏方四國へ志留む。

其途中ある桑名不^しして。一個の臣を獲らまらる。桑名孫
 次兵衛とてを号^あけ。取行^ふもまら^{こと}。易く土州不^し
 若^つきりり。運响土佐の國司へ。細川殿と稟^ます。武威喪
 へ^し。徳家^ともまら。右良^き本山^{もと}大平^あらんと。各^{おの}我方^くと達^たんと
 欲^あして。政^ま道^ち安^ん不^し國司^とと信^{しん}せむ。是^{これ}不^しよつて長^{ちやう}固^こ郡^{ぐん}に村^{むら}郷^{ごう}
 の莊^{ぢやう}司^しあるもの。元勝^{げん}の器^き量^{りやう}と号^{ごう}と。江^え村^{むら}後^ご守^{しゆ}
 が養^{やう}子^しと^{して}。長^{ちやう}尾^び郡^{ぐん}号^{ごう}不^し郡^{ぐん}の地^ち不^し。城^{じやう}を築^きく。元勝^{げん}と
 安^{あん}恒^{へい}せ^しめ。氏^{うぢ}と号^{ごう}我^が部^べと華^かめ^り。然^{しか}る不^し同^{どう}國^{こく}番^{ばん}と義^ぎ郡^{ぐん}
 不^しも。曾^{そう}不^し郡^{ぐん}と^{して}。一^{いつ}る不^しありて。領^{りやう}主^{しゆ}と号^{ごう}我^が部^べの某^{あま}甲^がとい
 ふ。同^{どう}國^{こく}不^しして同^{どう}名^なの。祿^{りく}謬^{みゆ}らんこと。致^あ忍^{にん}まて。各^{おの}く郡^{ぐん}名^なの
 一^{いつ}字^じと安^{あん}長^{ちやう}号^{ごう}不^し郡^{ぐん}。番^{ばん}号^{ごう}不^し郡^{ぐん}とを号^{ごう}らまらる。原^{げん}來^{らい}元勝^{げん}と

幹^{かん}器^き策^{さく}。他^た不^し勝^{しやう}まて。明^{めい}發^{はつ}あるべ。武^ぶ威^い遠^{えん}近^{きん}不^し布^ふ振^{しん}ふ。長^{ちやう}尾^び
 郡^{ぐん}の下^{した}風^{ふう}と号^{ごう}ぐ人^{ひと}多^{おほ}り。是^{これ}と長^{ちやう}曾^{そう}我^が部^べの武^ぶ祖^そと^{して}。
 それより十八代^{じゅうはちだい}の連^{れん}繼^{けい}と号^{ごう}。左^さ來^{らい}つ耐^{たい}元^{げん}秀^{しゆ}あるもの。本^{もと}山^{やま}
 大^{だい}平^{へい}右^{みぎ}良^ら山^{やま}田^{でん}がとめ^り。一^{いつ}遭^{そう}亡^{じやう}がさ^まと^{して}。千^{せん}五^ご丸^{まる}死^し場^{じやう}城^{じやう}
 通^とと。一^{いつ}條^{じやう}房^{ぼう}家^けの^{補^{おぎな}依^い}。細^こ川^{がわ}家^け亡^{じやう}びて一^{いつ}條^{じやう}殿^{でん}土^{つち}佐^さの^{國^{こく}司^し}。最^も長^{ちやう}尾^び郡^{ぐん}の^{姓^{せい}}
 の屋^や方^{はう}不^し在^{ざい}て養^{やう}育^{いく}せ^り。十五^{じゅうご}歳^{さい}不^しして元^{げん}服^{ふく}せ^り。宮^{みや}内^{ない}
 少^{せう}輔^ほ元^{げん}國^{こく}と号^{ごう}せ^り。一^{いつ}條^{じやう}殿^{でん}の命^{めい}嚴^{げん}不^しして。遂^{つい}不^し恭^{こう}ひ長^{ちやう}尾^び
 郡^{ぐん}の家^けと繼^つり。木^き領^{りやう}の地^ち不^し在^{ざい}。然^{しか}して番^{ばん}号^{ごう}不^し郡^{ぐん}の
 娘^{むすめ}と娶^{めと}て。四^よ男^{なん}二^に女^{にょ}と儲^{もろ}り。長^{ちやう}子^しの女^{にょ}性^{せい}。本^{もと}山^{やま}武^ぶ祖^その^{補^{おぎな}子^し}の元^{げん}
 親^{ちやう}。天^{てん}文^{ぶん}八^{はち}年^{ねん}巳^し亥^{がい}。二^に男^{なん}へ親^{ちやう}貞^{しん}三^{さん}男^{なん}へ親^{ちやう}恭^{こう}四^し男^{なん}へ鳴^{なり}孫^{そん}九^く弟^{てい}あり
 末^{すえ}子^しの女^{にょ}性^{せい}。妻^{つま}と^{して}。形^{かたち}の如^{ごと}く家^け業^{ごう}へ。居^い家^けも致^あ多^た隨^{ずい}逐^{じく}を不^し

亡父の讐を復せん。まづ山田丹後守を攻撃て。永濱の
 城を乗取り永濱の城の元親をして守らしむ。波去缺束の理
 通まぐしく。元國五十四歳を躬として。痛病のよめ不没故
 せり。これ不固て嫡子元親十八歳不て家督を續宮内少輔
 と号りたる。亡父の送信もありぬ。まづ叛城する泰泉
 寺掃部泰泉寺大和守の時まづいそが泰泉の弟と撃滅し。經て淺
 倉の城不推進を。城を本山式部少輔ありり。頻り
 和睦を求る。不ぞ元親も預てより。姉の婿たる本山を。頻り
 左右なく和睦を兵成て。此より南方大平の城を攻致り。次
 第不推進。右良後河守を攻致り。元親が陣取ありが
 ず。濠州の地へ逃退く。其外大言板。玉沢。右松。大黒。谷。横山

稲毛おどつ土列の法士。食意く降泰し。其を。長固一郡
 悉不令く平均也。然る不右良の家系と言へ。頼朝の舍才希
 義の子。右良八郎の孫ありと。此期不断せんと。惜と。
 左京進左京進の不家督を継し。右良の家名を達し。一り。
 亦番く。其のなき。母方の親縁あり。其後なく
 和豫の言熟し。同トく舍弟親泰を養嗣と。しむ。是も
 鎌倉権又高景政の譜脈ありと。斯ハ料理つるもの。不
 らん。それ後威の叙として。野村。姫。金。國。右。萩。野。馬。場。九
 百藏。野。田。上。村。南。森。山。伊。尾。森。等。永。山。川。つ。ま。も。威。風。乃
 嘗不應し。番く。其の法士。意く。麾。唯。ひ。り。り。不。より。然。バ
 安。森。不。向。を。んと。て。ま。づ。矢。流。衛。の。城。を。攻。る。不。猛。勢。破。竹

皇臣記 八編 卷之四

一三

不勝とまば。一日一夜不攻臨一。直地不安森の城不推進セ。
 城之修理亮と逐出也。且又野根の一城也。中内森去来不棄
 たり。次不蓮池と推拒固む。开も遠里地不射凝守ハ。一条宗
 の軍師ある。土居宗安あり。りりり也。容易陥べふハありり
 一と。土居孫左衛門心して。元親の陣へ内應一つ也。城不火
 と放りりりまば。忽地蓮池と棄捨とと。元親の軍師の
 如く不利りりりまば。津野の城之つの大橋左丈も
 降りて。孫次郎と婿とせり。是不おひて。言固邪不や
 旁一五ふ。土佐の國司一条大納言兼定卿ハ。宛滅の筈箇
 不座まさる。意味して。小崎安並乃松倚不。元親が軍と拒
 セりまども。いりりり款一果をべき。各務不不戦死して。兼定

由も土別不安在り。まさまむ。登後の國白井の城へ漂遷
 一五ひ。大友宗麟と特まれりりり。女風根やおがまむ。ん
 荐び強剛不還らセり。呼怖一くも元親指揮一。入江
 左近と潜不遣一。兼定卿と殺一まのま。強不凌思計不
 為あり。今ハ既不土佐一國を不刺るべき款もあまむま。機
 會と窺ひ阿波の國へ私入せんと準備せり。海防の城中
 不聆えりりり也。それく拒抗の備を固ふ也。茲不元親が
 弟海防九郎とりるものあり。病を保養のしめありとして。
 出京せんと發脱して。海防の隣宗佐不風待ありりり。と
 早くも城名聆出。海防三郎不若りまむ。婿りりりりりり
 馳来り。若もあまく。九郎を殺りり。元親と聆よりりり。

皇目言ハ義者之四

十三

發運立中て憤怒を發し。郡地小海部へ推進て一時攻不城と
 攻取其餘の海部七城を降伏せしめ。其威不棄して南方牛
 波の城を怒逼し。城を新田遠江入道道森を降らしむ。經
 ひく本津不推進らるが。城を八東桑岡名桑といふ。智勇
 不富らる名士あるは。元親自ら綱と巧まり。理解伐竭
 して吸降あさしめ。然して清重の城を攻る不。大將共
 下野守別勇あるは。力戦して禦ぐといふも。術進をせし
 て戦死せり。茲に三好山城守正康ハ。其身河内の宮安不
 在て。河州岩倉の城中不ハ。横田内膳塩田若狭守併發
 守並らるが。そをせしむ防ぎ果せむして。遂不落城ありらる
 由也。元親素名孫次名弟をもて籠在りき。暮び中留川

戦ふて。大小三好を替放り。郡地小三好の本城あり。勝瑞の
 城不推進て。猛奮激登して攻むること。烈火の像く。三好正
 康其威不怖て。遂不降集せられしり
 豫不推發し。三隴云本の城と臨し。三隴興居傳と降ら
 しめ。豫不の地不推移る。返國不して攻麾し。城あり。後
 目。榴白材田とをとり。三十餘城と不不属し。河野通直と
 攻んとす。時不小早川左衛門督隆景。内福をもて河野不
 加勢し。和熟の子を料理らる不。元親も追びが。ときと察知
 し。隆景の意不信せしり。然ども。田國一圍不。唯元親と怒
 怖を先と競ふて大等ハ。長男我部不を属し。これ不
 福の央より。天正十一年まで。のうちあり。屬く不若の行

豊臣評八編卷之四

廿四

おのゝあゝむ。宗族もまゝと断る。其の由も自ら不持つ宗教良小や。従ふところの由

一嫡男ハ孫三郎信親 任長不属せし一内府もろろとせおが

十四年九ヶ月改の折りておのち死せり 二男五郎二郎就明 養子とありて

三男津聖孫二郎就政 慶長中土佐において

男太弟ハ太弟盛就 後不熱心として 五男右近左史就泰

六子ハ女性 一条内政政の 七子女性 佐竹重人

八子女性 若松十左衛門 九子女性 佐竹重人

十子女性 若松十左衛門

佐亦智勇の切居よハ 同次良左衛門 中晴大和守

熊谷伊豆守

久武肥後守

吉田伊賀守

船倉左衛門

江村孫太弟

桑名孫次左衛門

野中三良左衛門

山川五郎左衛門

若田孫左衛門

十市新左衛門

桑名丹後守

嫡子内蔵助

南云左衛門太史

福富飛弾守

同 掃部助

同 監物

合子傳左衛門

横山九郎左衛門

同 三良左衛門

同 義人

江崎佐後守

五右衛門尉

馬場因幡守

光富權之助

野村甚左衛門

國吉三良左衛門

船倉左衛門

中内源左衛門

これを見て長考赤羽家の三十二人前と稱し。程その外

不も降將服士あらひハ服眩の臣家をもつて。佐平の城墨と守らしむ

篠原の城不ハ
平波の城不ハ
一宮の城不ハ
一宮南城不ハ
岩倉の城不ハ
吉田の城不ハ
岩倉の城不ハ
後田の城不ハ
長尾の城不ハ

東條岡名集
番号我部太直太丈祝泰
石村備後守
谷 岩名清
長谷部部掃部丞
吉田弥左衛門
所中三良左衛門
濱田岩太左衛門
玉右甚左衛門

長本の城不ハ
蓮池の城不ハ

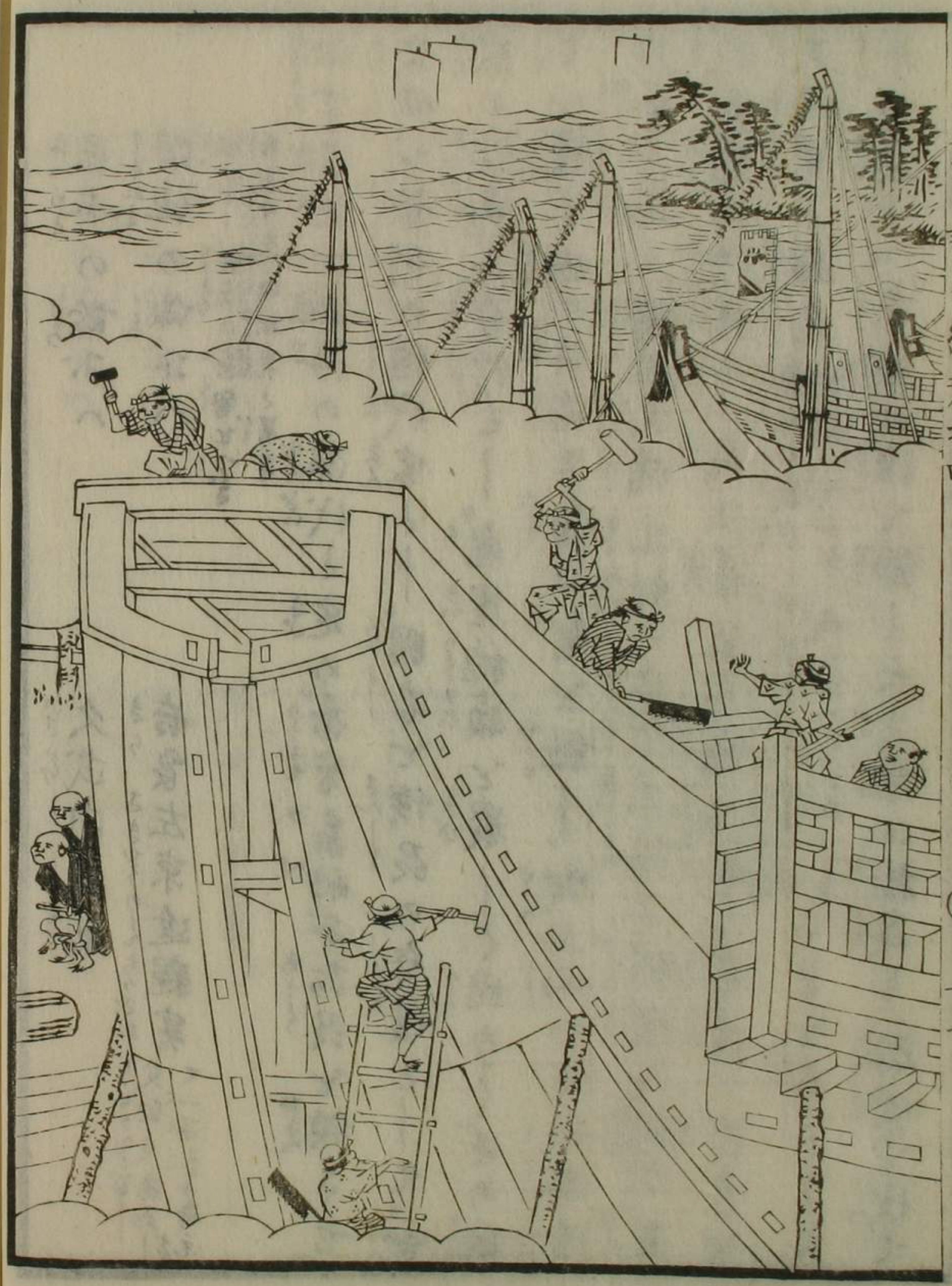
久武内蔵助
吉良左京進親実

此中吉良と西海の陣代と定め。番号我部不阿良と領させ。久武と孫別ノ總代官と。國若と後及の守備として。田國の佐城不分行を。虎崖施嶺と嚴しく固め。その城くと獲る响ハ。呂高子房の智と施。戦ふ响ハ。項羽樊吟の勇と振ふ。儲又大將元祝ハ。土州大濱不城堡と結び。足利義榮の所孫十一歳不長。鶴丸君と譽達て。おきと大將軍と扇天。鶴丸ハ義榮の所孫不。左束の佐。そきと名として。軍と真し。東北の海と陸して。上方不推昇り。所榮と伐て



四國征伐の
 準備として
 紀州加田浦に
 工匠と聚り
 大い船
 と作りむ

豊臣臣巴ノ編



豊臣臣巴ノ編

十一

上洛セむやと。各和教百倍らせつも。紀州の軍と試量在と
 り。斯て亦和業内大臣秀吉公へ。紀陽の悪徒と改麾け。根来
 寺と叙として。高野。真徳所と一圍不平等一玉ひ。然べ元親
 と攻べ一として。其御部分嚴重あり。元親頓て畿内海東
 へ遣一奪くる。潜行の各子を返り。和業家の軍旗と注伸
 一りむべ。元親略て然こそあるらめ。然るべ此方不も部隊
 せん。即地不佐將と招集せ軍の存儀不迄をせしり。時
 不捕男孫三部佐親席上三尺進膝して。衣儀被立て発云
 まるく。柳秀右氏勇不強飛。遂國までと呑んとまら。それ
 と阿容とく自國不在。和業が渡海と待ことへ。長男家部
 の武威拙き不似しり。他と制まると自と制せしるる。事

の先後むら不あり。速不此方より推涉して。後高部之首城
 獲ん。各同心あらべ一と。座中と睨て稟せ不ぞ。佐老も得
 の左右あり。然然として磔ある所不。右東つと御盛祝進出
 舎兄の命統まら。及とど。小弟が思慮とへお遠せり。丹も我
 國へ海心不して。和業を時へ往來一ぐと。今既四日へ九
 分とめて。長男家部不属一しり。殊不伴祿阿波渡波不へ。
 砦城と智勇の法將不守らせ。千謀万略不敵と悩ま。海不
 塵一山不血まらものあり。和業の一軍へ論不も迄む。日
 本國と教とまら。何の怖る。取らあし人。と大音声不述
 らる不ぞ。瑞座の個々不驗不理と。各こそ不同意し。濱山
 崖残りあ。其准伎不を迄をせらる。

内府合石田三成使土佐 属 元親頼威

元親の不若と行ふ者へ人量と殊一。幽暗の不若ハ鬼之と
 戮也。然ちど小内大臣秀吉。紀列の改子嚴密に令下屬
 らせ。一應系部へ所改陣まじく。忝内ありて天氣伐烟
 ひ。それより聚楽の亭中不々。改逆倅小執行未を也。翌日
 法將と召集め。迎奉土列の長考系部元親。武勇と四國を
 擅不。一衆家と滅却せらるるまじ。言語不絶して去逆あり。
 然りとも思緯あはせ。一庶土佐へ使者と遣え。其
 返答の若敷不因り。料理べしと令せらる。別地石田三成と
 召出されて。使節の形と令属らる。三成子細子領承あり。
 天正十二乙酉年四月中旬。羈粧と羨く。お粉。元親人

の倅支率列て。大坂の添と発帆あり。後お高松小若親去。
 時子磯波の総大将國右衛門左衛門。羽柴家より使者來り
 て。磯波の地が通ると。略路條町。掃除などさせ。高家の
 軍不徇示して。何みされ他國の旅人。不へ妨價もつとも貴
 く賣べし。おしも會釈せらる。嚴しく。南一。属ら
 せらる。浩る取へ石田三成。三十餘人の從者と率ひ。九段迄
 く來る。雨具と擔ふ一個の歩軍。若鞋買んと。陣名不立
 憑。價やいく。それとこれと向へ。一。百女ありと答ふ。それを
 うりうら。礮。餅。給菓子。ふいふ。まで。直分。外。貴。は。色。は。三。成。お
 ちひ。ふ。ち。驚。き。お。泊。年。禮。の。そ。お。へ。あ。も。走。馬。の。蹄。を。ぬ。ら
 る。心。味。し。齋。絶。し。踏。資。さ。ん。踏。り。む。く。お。み。あり。る。頃。

辛くも大演子列りりりり。城門子より通るるや。是
 へ内府秀右の上使。石田治部少輔あり。傳次をよと云投
 たり。城中あり。願て祈し。つるあまを。門と宛てあまを。通
 へ。横山九良兵衛出迎え。伴ふて去國不到る。その通衢の
 波送曲路。陣取衛取と當指え。弓矢多説あり。ひる給
 戦寸虚と見え。列備より。廳上もま。それ子から。毎
 隔く。子孫履合惟。備役ら。支遣子へ。三十二人衆と呼
 ぶ。せり。右田中。中。桑名。が。族。甲冑。摺。皮。肉。の。練。る。肩
 臂。ち。り。て。鞆。へ。り。歩。極。む。上。極。へ。これ。や。宿。乞。の。對。面。を
 へ。き。廳。と。入。へ。封。紙。令。報。も。て。塗。を。し。それ。が。紙
 上。下。土。估。何。某。が。ふ。ん。で。と。振。つ。る。激。波。旭。日。目。曉。く。見。行。る

布ともあく。警声うち。不。氣。さ。く。听。て。令。戸。と。右。子。祖。と。聞
 じ。べ。その。上。座。不。緩。り。其。へ。禱。と。紙。と。茶。一。籠。鬚。織。の。花
 筵。の。う。へ。子。三。ま。で。敷。重。ぬ。轉。へ。蜀。綿。異。後。の。古。渡。何。者。と
 も。て。座。く。せ。ら。り。と。三。成。こ。ま。と。祝。て。ま。ま。バ。身。の。材。三。尺
 あり。と。ハ。覺。え。ぬ。十一。件。の。異。お。奉。轟。々。然。と。し。て。烏。帽。子
 と。戴。き。澹。髮。色。不。潜。龍。の。紋。と。浮。ゆ。一。糸。子。と。若。寛。く。と
 して。座。と。占。り。その。ひ。ん。が。り。子。嚴。く。平。座。し。て。ら。へ。尚
 故。長。身。系。如。良。内。小。輔。秦。元。祝。ま。ら。ど。き。眼。不。願。癖。を
 と。笑。終。せ。り。四。方。流。見。虫。と。も。裂。く。聲。音。し。て。秀。右。の。使
 者。石。田。治。部。少。輔。三。成。と。や。ら。仕。つ。ら。あ。る。る。あ。り。て。上。使
 呼。り。云。詰。不。絶。ら。る。云。礼。あり。今。我。邦。より。他。國。へ。上。使。

豊臣記の綱卷之四

十一

遣むとも。他家より承べき不謂ふ。汝が一言の返答漸次
使者あまきばとて容舎しけり。骨骸切て無礼と整さん。言
状せよと威着る。石田怕ともなきばこそ。元親の方と十分
不視上。大守の伺その念と傳む。天子並べる日漏なればハ
地不雙立の皇あり。かごつけなくも内府秀右勅命と
蒙て天下の政事と関行ふ。普天の下卑土の賓王居あり
ざる軍なき不。今内府勅命と加しけり。率土の賓子冠と
して。其邪と正と裁紀むこと。一として私あはむ。石田三成
ら不來るへ是又主君秀右の命令あり。これ以上使と言
たむして。外不唱ふ。行やあら。佐助勅の命令ハ。四國四十一
郡のうち。河波の國。伊豫の國。合せり。二十三郡と。天下へ返

属せらるべく。然して。秦の元親不。後波土佐の二ヶ國。成
領べき命あり。亦く秀右の指揮不隨ひ。万民の苦と救ひ。
家名お績これありべふ。所思慮あつて。然るべし。倘又心不
迷ひと。柱り。迄長承諾なき不。おひてハ。天子の勅と彼りて。
大軍。地不。四國不。後海。一。征滅さん。こと易り。あん。所
波。伊豫。二。別も。秀右の。有と。一。欲まら。不。あ。各玉の
為とも。つ。政事と。紀を。取あり。解。賢慮と。繞ら。さま。
所。報。あ。ま。と。速。言。況。了。傳。ハ。考。二。弟。一。の。忠。臣。あり。と。
水。黄。門。の。責。せ。く。ま。さ。る。量。多。え。て。最。感。む。べき。使。況。と。り。
然。ども。我。慢。の。角。抗。ま。は。元。親。不。猛。於。せ。て。吁。耳。遂。一。や
使者の。口。状。秀。右。天子。と。捷。威。勢。と。自己。が。隨。不。一。と。

豊臣評伝 叙巻之四

十一

系不官位と昇進し。主家たる織田の蹟と慕ひ。我々の權
 子事と行ひ贖吾國と吞んを結構。延義とや謂ん。不
 道とや言ん。此元親へくさしけあくも。足利將軍義榮公
 の嫡孫鶴丸君と護長まわし。天子子奏して徳國の
 逆賊と伐平らげ。富民水火の難と濟ふ。仁義不道と
 濁ふ。忠孝不家と為る。せんといふ三成怯で親を
 此不す。まを女君へ今いふ足利鶴丸君あり。仰て面許
 ありまわし。せよ。女親小言とる。あは速地り首と切べ
 きぞ。登辭返て猿冠者。決度稟所をなす。そとに
 あり三成と鼓出せと罵廻し。鶴丸君の所子と操て後廳
 深く扱みり。巧断する三成も棄れお遠し。惘然と後

廳と睨らんで在り。遠侍不磔へ。武士四五人走脱と
 と進み倚石田と云態不返立る。懐懐ながら素服と
 大濱の城と退出稍磯波路不到り。頃ハ踏資全く殫
 り。乃ち勞苦の涯りいふ。播州室の津不怖。一
 浮田家不屬て資と乞。漸く大坂不陥り。つも。登城せし
 て元親が囑言し。まふく。阿難賢う。云状不およ。を
 りり

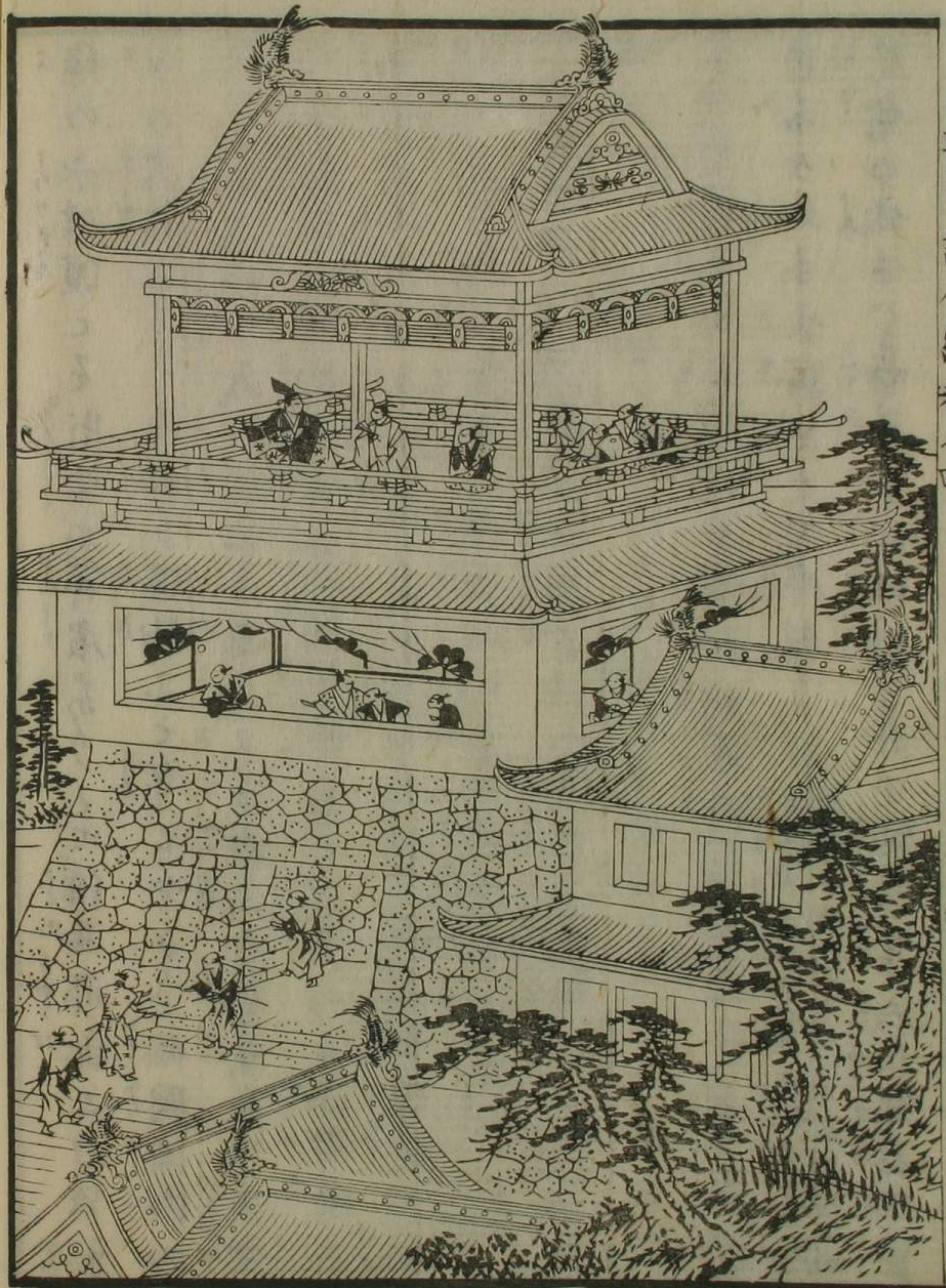
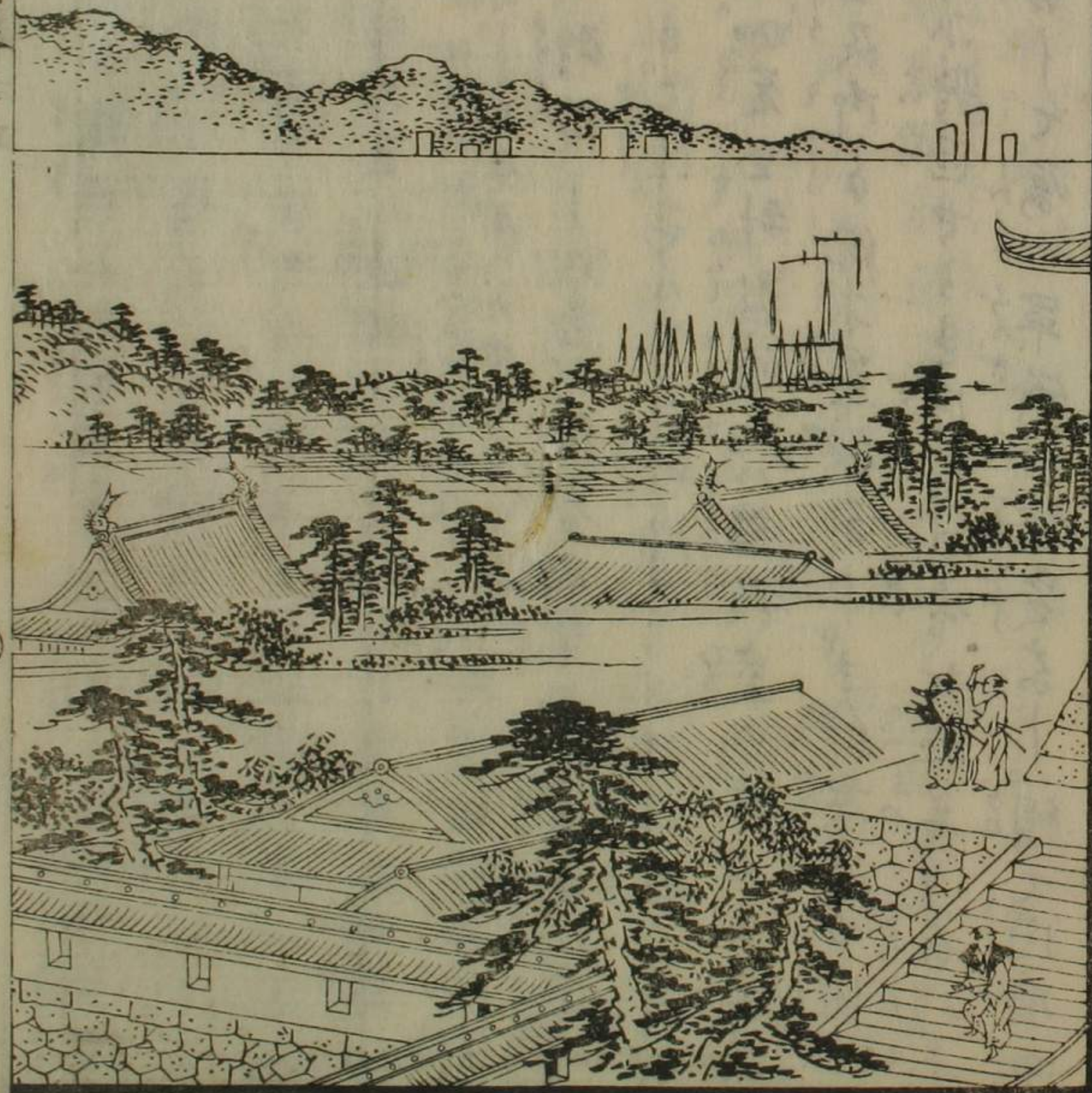
内府秀吉公發軍於四國 屬 清正渡海

刀と操てうたわす。む割芥と執てり。あはむ。伐の時
 り。長男家部元親ハ武威不驕り。内府殿の命不
 せ。却る上使石田三成と返返す。これ不周く秀吉公今ハ

其時ハ金輝際へも臨るると怪しまれて畏れあんど
言もあし。増て昨今風反扇しく。寸頃も船を行がされ
ハ秀長秀次一隊不合て。阿波の泊へ推進んとす。然して総
大将秀右公ハ石田三成と大坂城不留守なさしめ。自身
ハ泉及場あら。旭蓮社をもて柳本陣とす。旭蓮社の
加加田浦より出帆し。四國の合戦果遂むらん。紀
土佐へ向ちんと。其所準備不途をせよ。然あどり長
秀右親ハ預て防禦の部伍と。最嚴不捕へり。先
達羽柴の使節くる。石田三成と逐返してより。控も彼
と嚴密不あを。阿波伊豫後波の三列のうちもつとも伊

豫の水津濱こそ。所要の節度ありとて。徳居刑部。これ成
の大将とす。五子孫務不て守らせり。同國洞湖の
城中小ハ五十歳内通三子孫務。又ハ松山の要崖小ハ。久武
内藤助五子孫務其外柴尾。帆柱あんど。まつと西伊豫乃
防禦不ハ。大津守和重これと合せて八ヶ城。五百餘騎づ對
懸守らせ。備又宇尾の磯城小ハ。金子信長。赤松忠
一子孫務。次不瀬。及牟礼。松小ハ。宇松。左馬助。二子孫務。植
田の城小ハ。長曾。右左衛門。一子孫務。まつと阿波の泊
小ハ。東条。九良。吉清。三子孫務。同本津の要崖小ハ。東条。関
兵衛。五子孫務。をもて守らしむ。智勇の將とす。此要害不
岩倉の城小ハ。長曾。系。掃部。これ不福。富集人。正。熊。谷。伊。豆

長曾我部
 元親 足利
 鶴丸 君と
 象護
 武威と四
 國み振ふ



と達たつままるることとを得えん大持おほもちの侍将じやうじやうと蒙もうりて不覺ふかくととるとべ
 主計頭しゆけいとうが生涯しやうがいの瑕瘻くさんららあるぞ。つらつらまで風返かぜかへと畏おそるるななき。
 先まへや浦卷うらまきの蟻あま文おさうま漁うし師しと荷か擔たん来きべべとて。四方しやうほう八隅はつぐもえ
 走ま走まらせ令まこと報おほを多おほく祝あはへへ。漢まなぢ文ぢ三ひやう百まん人じんと艾くわ集ちゆうめ。清きよ
 正まさの本陣ほんぢんへ伴ま来きままり。主計頭しゆけいとう大おほ小こ敵てきひ直地ちかち小こ早川はやがわら
 陣ぢん不ふ別べつり。今いま宵よひ直相ちやうさう縁えん及およ不ふ渡海わたうみ。敵てきの不ふ言ごと撃うつつと欲ちゆう
 せ。隆たか系けい不ふへへつらつら懐おほささつつと。言ことば出いままば尤さ来きの督とく符ふ密みつくく不
 ああここえてていいたたく。然しかままでで不ふ愧ちゆうせせままふふべべうう。ほほ浩こうるる日ひ夜やのあ悪あく
 風雨かぜうと犯おして出い出いおおひひももよよららむむ乃すなは士し發はつ幸こう返國かえくに不ふ任にんし
 て。預あきめ海うみ上かみ風返かぜかへの難易なんいととししままり。返方かえほうの海うみ新あらたなるる响ときを。
 四し玉ぎよくの風波かぜなみ最もも暴あつし。備後びご中なかつ不ふししてて三さん矢やああららば。自みづか方かた

と損そんむむるるののここととああららむむ。元もと犯ちゆう不ふ威ると添そるる不ふ似にししり。方は僅ま要ん
 時ときが量りやう試し合あせせままへへと。殊ことれれめめと聆きも然も然も發はつやありりりん。足下あしげの
 教しやう示し裡りりりああららむむ。勇ゆう士しとと軍ぐん機きの紐ひもと待まち一ひと遭あ款くわん不ふ習じゆうふ
 响ときへ。令いと弃まつつの覚かくご知ちあるること。吾われのここととああららむむ他ひとも然も然もあり。
 今いま出い出いしして入い水すゐせせば。それ迄までの運命うんめい不ふしして。何なんの畏おそるる
 事ことりああららむむ。足下あしげ兼か引ひししるる一ひと玉ぎよくんん。吾われ一ひと隊たいととももて乗出のりいし。
 備首びしゆ尾び全ぜんくくして彼岸かゝし不ふ忘わべ。来日らいにち再また舍しやつつららままつつるるべべ。後あと
 中ちゆう不ふおおひひて做し損そんトトああべ。是これ今いま生なまの別辞べつじあり。涉しやしし得える
 も涉しや得えるるも。愿ねが清きよ正せいが運うんああららむむ。金かね足たるる吾われ君きみ秀ひで右みぎの天てん
 下したり。授とけららままるる武ぶ徳とくふふまま。解とくく深ふか慮りよすす。ままををべべと。
 言ことば弃まつつて快くわい退たい出しゆつひひが如ごとく不ふ君きみ陣ぢん中ちゆうへ立たち吸くり。飯い田でん本ほん村むら不

りつひ 言明て兵船大小三十艘。速地不藏させ。一艘の船不海士十人づつ支部させ。助艦の人杖と十人副暮陽天より 艦解く也。櫓と立ること 艦の像く。風波不覺き 船司指揮と 駁執棄せ。五六合布と横帆不張らせ。膽忍しくも棄出せ。 備又小早川隆景へ。中國を獲の名將をば。清正が辞去るの 行不。勇右の還不。信をといひ。へ。了得不。智勇の 一言あり。と。信と心不徹。りるゆゑ。渠へ。性古源延耐 強が。平氏と征伐せ。一例子快て。出船せ。もめなきべ。 今宵の風波暴きと憑きて。故も濱方の備位と後ふ。 防禦不怠ること。必定ありん。其方と術もあく。艦破バ 四國の大款到。し。といふも。自方十分の勝利あり。返路

の功と清正一隊不。奪をり。も朽憾。先や経て。櫓い。 加茂の勢不劣行る。ま。と。頓不指揮。して。兵船百艘。其隊の軍勢三万餘騎。我者ら。と。棄出せ。へ。宥冷。くも ま。と。続。ま。り。り。

繪本豊臣勲功記八編卷之四了

